

## 第11回 IAGG アジア / オセアニア国際老年学会に参加して

小林小百合\*, 松戸典文\*, 村田友紀子\*

### Experience of participating the 11th International association of gerontology and geriatrics asia/oceania regional congress 2019

Sayuri KOBAYASHI, Noribumi MATSUDO, Yukiko MURATA\*

キーワード：老年看護，国際学会，IAGG

Key words：Gerontological Nursing, international congress, IAGG

#### I. はじめに

2019年10月23日から10月27日にかけて、台湾で第11回 IAGG アジア / オセアニア国際老年学会議 (11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2019) が開催された。本学看護学部の老年看護学領域では、松戸典文、村田友紀子、小林小百合の三名が、この国際会議で研究成果について発表する機会を得たので、その経験について報告する。

#### II. IAGG アジア / オセアニア国際老年学会議の概要

IAGG は老年学を推進する学際的かつ国際的組織であり、そのミッションとして、国際的に老年学研究や研修における最高水準の成果を推進すること、グローバルな老年学への関心の促進において、他の国際的組織、政府および非政府組織と交流すること、それらのメンバー組織を代表することを挙げている (IAGG ホームページ)。同ホームページによれば、73の組織、

65以上の国、45,100人以上の専門職が加入しており、1950年第1回ベルギーのリエージュ以来、4年ごとに計21回の国際会議が開催されている。2021年の国際会議はアルゼンチンのブエノスアイレスで開催予定であったが、世界的に猛威を振るっている COVID-19の影響により、開催が1年延期された。

一方、アジア / オセアニア、南米およびカリブ海、ヨーロッパ、北米、アフリカの5つに区分された地域ごとにも定期的に国際会議が開催されている。筆者らが今回参加したのは、アジア / オセアニア地域の第11回の国際会議であった (写真1)。「シルバーワールドの健康と幸福：ベンチから政策へ」をメインテーマに、「臨床科学」「生物化学」「社会科学」「政策・企画・実践」「ジェロンテクノロジー (高齢者支援の工学技術)」の研究者が発表を行い、会場となった台北国際コンベンションセンター Taipei International Convention Center (TICC) では、熱い議論が交わされた。

筆者らがポスター発表した研究についても、

\*駒沢女子大学看護学部

以下に簡単に紹介する（写真2、3）。小林は、長年取り組んでいる認知症高齢者グループホームでの研究の一端について、「WHAT EFFECT THE PHYSICAL AND PSYCHOLOGICAL CONDITIONS OF THE RESIDENTS WITH DEMENTIA HAVE ON

DAILY CARE IN GROUP HOMES ? (グループホームでデイリーケアを受ける認知症高齢者への身体的・心理的影響は?)」というタイトルの発表を行った。松戸は「PUBS AS AN INDICATOR FOR ADDRESSING CONSTIPATION AMONG THE ELDERLY (高齢者の便秘を改善する指標としてのPUBS)」というタイトルで、紫色尿バッグの色の軽減で便秘の改善が見られたという内容を発表した。松戸の研究はポスター発表部門で優秀賞を受賞という榮譽に浴したことも、併せてここに報告させていただく。この審査は、選考委員会審査員により、「研究のレベル」、「質」、「プレゼンテーションの明瞭さ」に基づいて行われ、口演発表部門では217題の中から10題、ポスター発表部門では546題の中から18題が選ばれた。

学会には1,000人以上の参加があり、東はオーストラリアやニュージーランド、西はイランからの参加であった。台北国際コンベンションセ

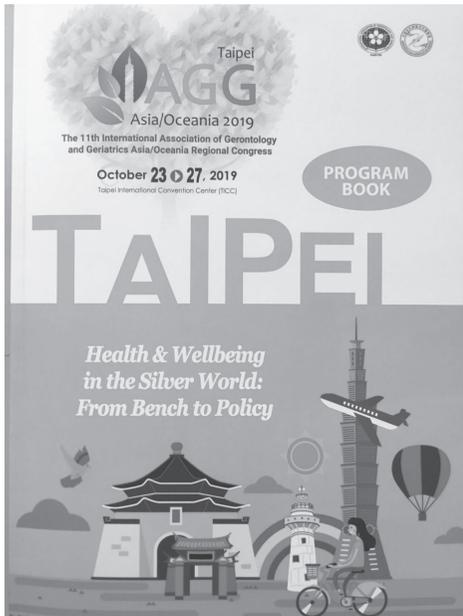


写真1 プログラムブック

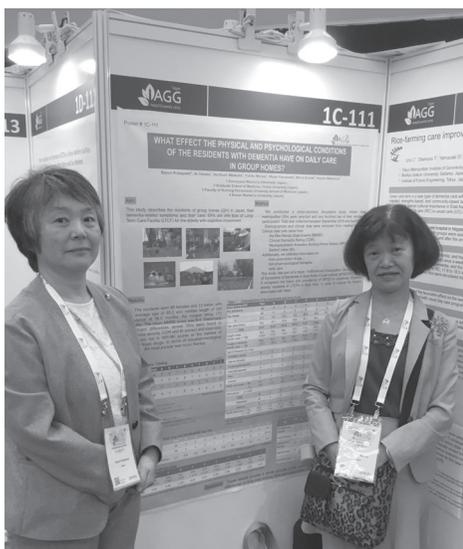


写真2 ポスター前 筆者、村田講師



写真3 ポスター前 松戸助教

ンターのポスター発表会場には多くのポスターが展示され、指定時間帯に発表者が自身のポスター前で待機しているところに、参加者がケーキとコーヒーを持ちながら自由に質疑応答をするスタイルの発表であった。もちろん、発表者も同様にケーキとコーヒーを手にしながらの対応であった。英語を母国語としない参加者同士の会話は、たどたどしい英語を補うためにボディランゲージを交えたものではあったが、とても和やかな雰囲気の中かで、発表内容そのものへの質疑応答にとどまらず、研究に至ったそれぞれの母国の社会状況や、将来の共同研究の可能性についてなど、国際会議ならではの話題で交流ができたように思う。

ポスターや口演などの研究発表以外にも、講演、ワークショップ、シンポジウムなど多くのプログラムがあった。小林は、国際会議前日のプレイベントのワークショップのテーマ「高齢者の急性期ケア」に参加した。実は、事前登録した参加者、おそらく台湾在住の参加者が対象のワークショップだったようだが、身振り手振りの交渉の末、熱意が伝わったのか会場に入ることが許された。スライドも含め、中国語での発表が主だったため、ほぼ言語的理解には至ることはできなかったものの、会場の熱気をじかに感じる事ができた貴重な体験であった。

村田、松戸は会議日程の中日に開催された懇親会にも出席した。来賓として日本の首相に相当する蘇貞昌（そ ていしょう）中華民国行政院院長の祝辞を拝聴する機会があり、IAGGの活動に寄せる台湾の期待の大きさを感じた一場面であった。さらに、台湾在住の研究者の紹介で、会議開催期間中の25日には、村田と松戸は桃園市亀山区にある高齢者施設「長庚養生村」を視察することができた。この施設は、台湾の大企業集団「台湾プラスチックグループ（台塑集團）」のCEOが、社会貢献のため設立した

ものであり、見学の詳細については本学のホームページで紹介させていただいた。

### Ⅲ. 国際学会参加の意義

今回の国際会議参加に際して、残念ながら現時点では出張費など本学からの公的な補助はないため、各自私費による参加ではあったが、学会出張扱いでこうした貴重な時間の確保にご協力いただいた看護学部の先生方に感謝したい。看護学分野においても、国際学会での発表や国際誌への論文投稿ももはや特別なことでなく、特に若手の研究者には視野を広げ、切磋琢磨していく場として、こうした国際学会への参加が容易になるような体制が必要であろう。一部の大学ではあるが、学部段階での海外研修や留学が科目として企画され、国際的な視野が早期から養成されているところもある。我が国の看護学の発展に必須の活動だと認識されているためであろう。

老年看護学分野での国際学会参加の意義について、筆者らの経験を振り返ってみたい。日本は、超高齢社会の先陣をきっており、国民皆保険や介護保険制度などの社会制度の整備も先行している。そのため、国際学会などで期待される役割は、超高齢社会への対応についての知見を有効活用してもらうための発信であるといっても過言ではない。しかし、国が異なるということは、社会情勢も含めそもそもの前提から違っていることも多く、日本の知見を正しく伝えるためには、日本国内で自分が当たり前だと思っていたことを客観的にとらえなおして、相手に伝えるという作業が必須になることを学んだ。一方で、制度は未整備ではあるが斬新で挑戦的な他国の取り組みを正しく評価していなかったり、新たなケアへのチャレンジや斬新なリサーチクエスションの発想が困難になっていることを自覚する機会でもあった。文字情報だ

けの論文とは異なり、発表者や会場の熱量を直接肌で感じる事ができたことが大きな収穫だった。

なお、今回の IAGG アジア / オセアニア国際老年学会議は2023年6月12日～15日に横浜（パシフィコ横浜ノース）での開催が決定した（日本老年学会ホームページ）。渡航費の工面や学会参加のためのスケジュール調整が最小限で済む国内での国際学会は貴重である。ぜひ国際交流の輪を広げ、強めていくためにも、開催国の参加者としてもできる限り役割を果たしたいと思う。

#### IV. おわりに

昨秋、台湾で開催された第11回 IAGG アジア / オセアニア国際老年学会議に参加し、研究成果を発表する機会を得たため、その概要と雑感を述べた。昨今の今頃は予想だにできなかった世界的な COVID-19 の蔓延を考えると、タッチの差で得られた貴重な国際交流の経験でもあった。国際学会が開催されるであろう近い将来に向けて、発信できる研究の知見の蓄積を目指し、また、国際交流によって得られる様々な発見や学びを十分キャッチし、吸収できる準備をしておきたい。

#### 文献

IAGG (INTERNATIONAL ASSOCIATION OF GERONTOLOGY & GERIATRICS)

ホームページ：OUR MISSION, <https://www.iagg.info/mission>. (検索日：2020.9.20)

日本老年学会ホームページ：IAGG (国際老年学協会), <http://www.geront.jp/iagg/index.html>. (検索日：2020.9.20)